



発行所
日本工業大学
広報課
〒345 埼玉県南埼玉郡
宮代町学園台4-1
☎ 0480(34) 4111

大川陽康学長再任

学長の任期満了にともなう選考の結果、平成三年十二月十二日付で、大川陽康学長の再任が決定した。

大川学長は、昭和六十一年十二月副学長、翌年十二月には学長に就任、四年の任期を満了し、今回再任されたものである。なお、今回の再任にともなう任期は、平成七年十二月十九日までである。



学長略歴

大正十四年五月二十日生。
昭和二十二年三月
旧制東京工業専門学校機械科卒業
昭和二十二年四月
東京工業高等学校教諭
昭和四十二年四月
日本工業大学助教授・同教務部長（昭和六十二年十二月まで）
昭和四十二年七月
学校法人東工学園評議員（現在に至る）
昭和四十六年四月

授
日本工業大学機械工学科教授
昭和五十年七月
学校法人東工学園理事（現在に至る）
昭和六十二年十二月
日本工業大学副学長
昭和六十二年十二月
日本工業大学学長（現在に至る）
平成元年十月
学校法人日本工業大学副理事長
平成三年三月
学校法人日本工業大学理事長（現在に至る）

工業技術博物館 第一回特別展開催

このたび、工業技術博物館において、第一回の特別展が、テーマを「Manpower・自転車と生産技術―自転車の発展過程における生産技術との関連について―」として、平成三年九月三十日から十月六日の七日間にわたり開催された。

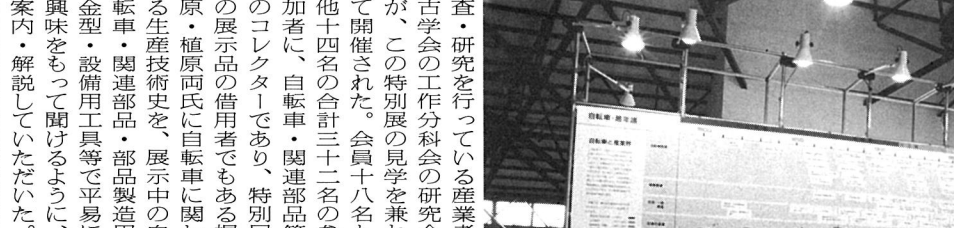


工業技術博物館は、昭和六十三年十一月に正式開館以来、学内外から多大な協力を得て展示品・資料等の収集作業も順調に進展しており、現在、工作機械を中心に二百点以上の常設展示品を所蔵している。このような収集作業のほかの博物館活動の一環として、特別展の開催を実施したものである。

今回の特別展は、本年三月に完成した二階展示場（八十平方メートル）にて開催された。内容は、人間と機械の最初の接点である「人力を動力源とする機械」に着目して、さらに、多種多様な動力源が存在する現代でも、ひろく興味をもたれ、実用かつ市民スポーツとして定着している「自転車」をとりあげ、その発展過程と、どのような生産技術の発達によって量産化がなされたのかを、展示・解説するものであった。その主な展示品は、

- 日本で生産された初期の自転車
- 部品加工の大半が、切削加工と塑性加工により行われている自転車
- 最新の加工法や素材で造られた自転車
- 過去と現在の自転車の生産を行った金型の実物とその工程見本
- 熱間圧延と冷間圧延による自転車部品
- 最近では用いられなくなった工具と、その工具を使用して製作された自転車部品
- 海外の製品を模倣して製作された国産の製品
- 国産の製品を模倣して製作された海外の製品
- 明治・大正時代の自転車に関係するポスター

さらに、この特別展の会期中に、二つの催しが開催された。まず、十月二日に博物館後援会の発足式および第一回総会が開催され、法人会員二十社四十名、個人会員十六名、他一名の合計五十七名の博物館後援会会員の方々と大学関係者として、執り行われ、同時に本学の野中宏教授による特別講演「機械の美・機能と美の関係について」も行われた。また、十月五日には、産業遺産を実証的組織的な調査・研究を行っている産業考古学会の工作分科会の研究会が、この特別展の見学を兼ねて開催された。会員十八名と他十四名の合計三十二名の参加者に、自転車・関連部品等のコレクターであり、特別展の展示品の借主でもある梶原・植原両氏に自転車に関わる生産技術史を、展示中の自転車・関連部品・部品製造用金型・設備用工具等で平易に興味をもって聞けるように、案内・解説していただいた。



日常、便利に利用している自転車の歴史の一面を紹介することができると期待されている。この特別展は、本特別展を開催したのであるが、見学された方々の意見はどうであったでしょうか。

最後に、この期間に限っては、日曜日も開館したこともあり、特別展には、八百名以上という大勢の方々に来館して頂きました。特別展開催にあたり、ご協力下さいました方に厚くお礼申し上げます。

新理事長就任を 祝う会開催される

昨年三月、学校法人日本工業大学第四代理事長に就任された大川陽康先生の理事長就任を祝う会が、去る九月十二日新宿のホテル・サンチュリーハイアットで行われた。

先生は大学が、昭和四十二年に創立されると同時に教務部長に就任され、昭和六十二年第六代学長に就任されるまでの二十年間にわたり、教務部長・機械工学科教授として本学草創の時代の重要な一翼を担ってこられました。学園においても、評議員・理事として学園の運営にかかわってこられ、平成元年十月からは学園の副理事長として、前理事長窪田宗英先生を補佐して学園全体の教育・運営に意を注がれてきました。

この度の「大川陽康先生の理事長就任を祝う会」は、このような先生が新理事長として、これまでの学園の伝統を受け継ぎ、さらに一層発展させてほしいとの先生への期待から開催されたものである。



祝辞をのべる横尾肇同窓会会長

日本工業大学 平成4年度 学生募集要項

工学部一般入学試験

◎募集学科および募集人員

機械工学科／40名 電気電子工学科／40名
建築学科／40名 システム工学科／40名

◎入学試験の日程

出願期間 1月9日～2月5日
試験日 2月12日 機械工学科・電気電子工学科
2月13日 建築学科・システム工学科

合格発表 2月21日
入学手続締切 2月29日

◎試験範囲

志望学科	方式	試験科目および範囲
機械工学科 建築学科	B方式	数学Ⅰ『数学Ⅰ＋基礎解析・微分積分』または『数学Ⅰ＋工業数理』のいずれか選択。 専門―志望学科の専門科目 英語―英語Ⅰ、英語Ⅱ
電気電子工学科 システム工学科	A方式	数学―数学Ⅰ、代数・幾何、基礎解析、微分・積分、確率・統計（統計的な推測）に関する部分は除く） 理科―物理（理科Ⅰの物理の関連分野を含む） 英語―英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語ⅡB、英語ⅡC

※システム工学科（専門科目）は機械、電気・電子、情報技術関係科目より選択

大学院 工学研究科

◎募集人員

修士課程 機械工学科専攻 若干名
電気工学科専攻 若干名
建築学専攻 若干名
博士課程 機械工学科専攻 2名
電気工学科専攻 2名
建築学専攻 2名

◎日程

出願期間 2月21日～3月2日
試験日 3月5日
合格発表 3月12日

お問合わせは
日本工業大学 教務課入試係

〒345 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1
TEL 0480-344-1111
FAX 0480-344-2941

盛り沢山の研修メニュー

副団長 野村 隆

今回のヨーロッパ研修に副団長として参加し、初めてヨーロッパの土を踏むことができた。私にとって、二回目の海外旅行である。初めての海外旅行は、昭和六十三年に三浦先生（当時学長）、長田機械工学科教授、岩瀬電気電子工学科教授と共に行った韓国であった。しかし、韓国は日本から飛行機でわずか数時間の隣国であり、同じ東洋の国でもあったので、海外旅行といっても私にとっては実感が湧かなかった。

今回の海外旅行の最初の訪問国イギリスまでは、成田から十二時間もかかり、ロンドンのヒースロー空港に到着した時には、随分遠い所まで来たもののだと思った。

片山団長（電気電子工学科助教授）、研修参加学生十七名と共に、添乗員の加藤さんからまず、説明を受けたのは、



ロンドン・タワー・ブリッジにて

クランド、フランス（パリ、ニース、ポールグリモ、アルル、ドイツ（フランクフルト、ハイデルベルグ、ウイスバーデン、シュトゥットガルト、ミュンヘン）、リヒテンシュタイン、スイス（ルツェルン、ジュネーブ）、スペイン（バルセロナ）、イタリア（ローマ）。何と沢山の国や都市を訪れたことだろう。

そして、乗り物のメニューである。飛行機、船、バス、タクシ、列車、登山電車、地下鉄等、あらゆる交通手段を駆使しての研修であった。

次に、歴史のメニューである。ヨーロッパの歴史は、日本とは比較にならないほど古い。紀元前からのヨーロッパの歴史の大きなうねりに圧倒された。たじろがざるをえなかった。建物や美術、科学等が我々の研修の一行に、その歴史を知らせてくれた。歴史ある建物を挙げれば、アルルの円形競技場、ローマのコロッセオ、完成に百二十年の歳月を費やしたバチカン寺院、紀元前二十七年に建てられたパンテオン、スペインのガウディの建物等、枚挙に暇がない。古い絵画や彫刻にも接することができた。それは、ロンドンの大英博物館、パリのオランジェリー美術館、ルーブル美術館、オルセー美術館、ミュンヘンのアルテ・ピナコテーク美術館、ニースのシャガール美術館、ローマのバチカン博物館においてである。科学の歴史を知る上で、最も人気の高かったのは、ミュンヘンのドイツ博物館であり、車のマニアにとって見逃せなかったのは、ダイムラー・ベンツ博物館とBMW博物館であった。

風景のメニューも沢山用意されていた。機上にてシベリア上空から見た大小様々な沼やグランドキャニオンを思わせる荒涼たる岩山、パリからロンドンに向かう途中で見たモンブランの山。ヨーロッパのどの街にもあった太くて大きなプラタナスの並木路、美しい花が植えられていた公園や街の通り、建物の各階ごとに飾られていた草花、そして、国旗。ゆるやかな丘に広大な緑の絨毯を敷き詰めたような田舎の風景も美しかった。ニースの青い海、思わず溜め息が出たアルプスの大パノラマ、澄み透る美しい川と城壁の街ルツェルン等、これまた枚挙に暇がない。

飛行機の中では、不思議といつも私の隣の席にいた牧野君。穏やかで、しっかり者の橋本君。よっちゃんと呼ばれていた吉田君。メガネの紐を一マルクでゆずってくれた、明朗な小田切君。ピデオカメラをさかんに回していた安部君。ホテルの私の部屋に度々遊びに来た飯森君。帰りの成田空港で晴々とした表情だった一年生の出口君。近鉄バファローズの野茂投手に風貌が似ていることから皆に野茂と呼ばれていた飯君。ローマのビバリーヒルホテルのロビーで深夜まで語り合った細田君。いつもニヒルにサングラスをかけ、眠り狂四郎を思わせる芦田君。各国のビールの味比べをしてみた、と言っていた砂子君。参加学生の中の体育会代表の清水君。眠れぬ帰りの飛行機の中で語り合った小林君。ホテルのフロント嬢と写真を撮ろうとしたが断られ、がっかりしていた木下君。寝たきりの祖父へのお土産を相談に来た祖父孝行の佐藤君。帰りの飛行機が落ちても悔いはないと言っていた山口君。研修の結団式で挨拶をしてくれた、ちょっと照れ屋の山田君。皆それぞれに、この研修旅行で得たものは大きかったに違いない。そして、視野も広まったことだろう。ヨーロッパを身近に感じるようにもなったことだろう。ローマのテレビの泉でコインを投げ入れていた君たちが再び素晴らしい恋人と一緒にいる日が来るように祈っている。

最後に、この研修一行のチームワークをまとめられた片山団長と、このような機会を与えてくださった大学に心より感謝を申し上げて、研修報告を結ぶことにする。

（就職課長）

ヨーロッパの文化

建築学科3年 砂子龍一

僕が今回のヨーロッパ研修に参加しようと思ったのは、講義等で見るとスライドや写真の建築物を一度自分の目で見て、それらから何か得るものがあればと思ったからです。旅行に出发する前に普通はガイドブックや雑誌等で下調べするでしょうが僕はそういつた旅行が好きではなく、いつも旅行は目的を決めずに行くので今日の研修旅行も何も下調べせずに出発していきました。旅行中は自由行動が多く友達と地下鉄やタクシをした自分の足で地図を片手に街中を歩きまわりました。最初の頃は食事をするのも遠慮がちだったのが二日、三日と日を重ねるにつれてそんな事もなくなり下手な英語も何とか通じるようになりだんだん街に出るのが楽しくなってきました。そして夜にはBARを探して歩くようになりました。旅行の思い出としては、どの国の街も印象的な事ばかり

第19回 ヨーロッパ研修

親近感のある異国人

システム工学科3年 小田切 剛

「今しか行く機会はないよ。」という親の好意により、今回ヨーロッパ研修旅行に参加することとなりました。

参加するからには何か目的を持たなければならぬと思い、現地の人と直接コミュニケーションをとることにしました。異国の文化を感じよう、と思いました。

旅行前にガイドブックは買ったものの特に下調べもなしにとて慌ただしい状態で旅路につきました。

現地に着き、私は現地の人にできるだけ溶け込むように心がけていたのですが、他から見ると私はかなりジャパニーズクレイジーだったようです。夜、散歩をしていて、お巡りさんに不審尋問されたのは私ぐらいでしょう。

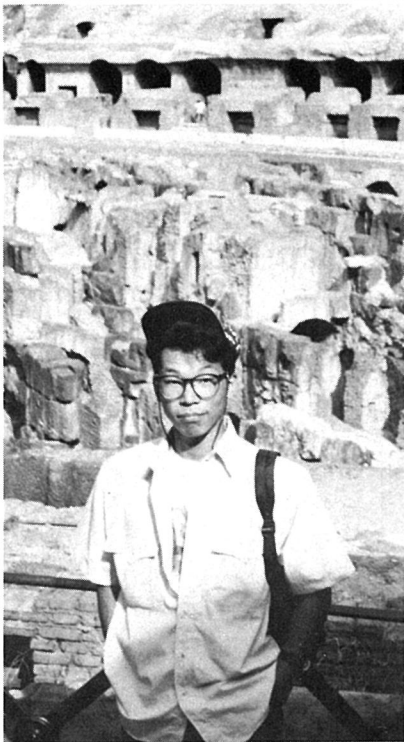
それはともかく、日本と異国の文化の違いには驚きでした。主に衣食住、そして人柄ですが、この人柄の違いには感銘に値する程でした。

食事をする時も、駅で切符を買う時も、店先で物を買う

でしたが特に上げるとしたらスイスが一番良かったと思います。日本の自然とは比べものにならない程の大自然が今でも一番印象に残っています。さらに、ヨーロッパ全体に言える事が、街中に緑が多いという事でした。公園も規模が大きく、一日中公園にいてもいいくらい場所が数多くありました。また、旅行中に不便を感じた事が一つありましたがそれは、飲料水を買うということがでした。日本ではどこにいても飲める水が、ヨーロッパでは買うのがあたりまえなのです。この水と、ドイツのアウトバンのサービスエリアでビールを売っているという事が旅行中に一番驚いた事です。そして旅行中に感じた事は、異文化という事です。ヨーロッパの人々とはみな明るく、親切な人ばかりでした。



クライネシャインェック駅（スイス）にて
〈右・筆者〉



コロッセオ（ローマ）にて

時も、人に道を尋ねた時も、いつも温かく迎え入れ親切にしてくれたことが、とても印象的でした。ヨーロッパは人種のるつぼですから、異国人を異国人と思わないのですね、現地の人と直接コミュニケーションをとることににより、あのような接し方ができるのがすごいな、と思いました。異国人を見ただけで後ずさりする日本人っていったい…。でも逆にいいかげんなことろもありました。物を買う時に大きなお金で払ったら、おつりがそんなに出不せないと言つたり、レジの中の小銭を全部私にくれたり（その後どうしたのかわかりません）。

私はこの旅行で、陽気で垢抜けているが親切で、それでいてなぜか親近感が持てた、というのが、異国人に対する正直な印象です。そして、実際に聞くと見るとは違うだらう？、出店でコーラを千円で買ったり、今となってはいい思い出になりましたが、今後、自分が生活していく上で大きくプラスになることは間違いないでしょう。また、私の所に来てくれたれば、各国の体験談を聞かせてあげたいと思います。それにより、私と同じ喜びを得てくれる人がいたならば、幸いです。

この楽しく、そして勉強になった旅行に、両親、添乗員の加藤さん、バスの運転手のワナさん、旅先で知り合った人達、旅行に携わった先生その他の方々に感謝しつつ、ペンを置きたいと思います。



第8回
カナダ特別英語研修

終えて

倉島清隆

に移して実施された。

✱
✱
✱

研修は、カナダ第三の都市バンクーバー郊外にあるグリティッシュ・コロンビア大学（UBC）で行われた。UBCは千エーカーに及ぶ広大なキャンパスと、十二学部・三万人

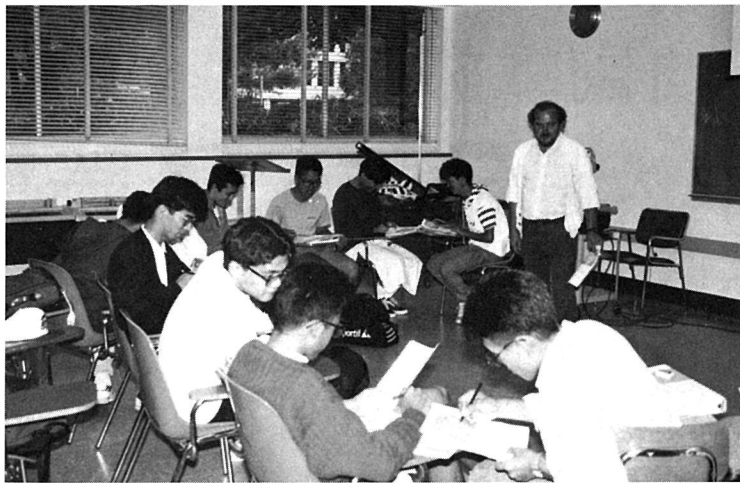
を越える学生数を誇るカナダ
西側最大規模の大学である。

フィールド・トリップは、
授業で学んだ知識をベースに

「四年間の学生生活中に何がしたいですか?」と問われて、即答できる方はどれくらいいいのだろうか? 恐らく明確な目的意識を持って大学にきている方は少ないと思う。人間とては後悔の動物であると私は考える。学生時代を過ぎて初めから「あの時何をしておけば良かった。」と悔いるものである。明確な目的意識を持たない貴方、時間には限りがあります。有意義な学生生活を過ごすために何か目的を見つけて今しかできない貴重な体験をしていただきたい。大学が企画しているカナダ特別英語研修・ヨーロッパ研修が皆さんの一助となれば幸いである。

最後に、この研修の機会を与えてくださった大学関係者に謝意を表し、結びとさせていただきます。

(経理課員)



自分のまちのように生活した カナダ・バンクーバーの三週間

僕にとって、今回のカナダ特別英語研修は初めての外国で、飛行機に乗るのも初めてなら、その外なにもかもが初めてで、出掛けるまではいろいろなことを考えて不安でいっぱいでした。

来る唯一の場のため、気持ちの休まる唯一の場でした。授業中は、日本語は厳しく禁じられていたので、小さい声で話をしていました。

UBCのキャンパスは広くて、それでいて、学生以外にも開放されており、プール・食堂・博物館などは、小さい子からおじさん・おばさんまで、人びとでいっぱいでした。

授業の終わった午後は、UBCの先生に引率されてバンクーバーの名所、見所をいろいろ回って見たり、次にバンクーバー

こんなふうに全てがわからなく、不安は膨らんだままバスクーパーでの生活は始まりました。三日目からはホームステイが開始になりました。ホスト・ファミリーにあいさ

に来る時には、自分で歩きまわれるように思いました。

しばらくして、ホストファミリーとはなんとか辞書を使って話せるようになり、僕と同じくらいの年のブラザー二人

した。
バンクーバーの家々は、連
なって建てられているのです

らしいに涼しい、そんな気候で、サイクリングをする人が多く、自転車はマウンテンかロード

こうして、不安だらけで出掛けたカナダ・バンクーバーへの旅は、終わってみればやっぱりよかった、というのが感想です。バンクーバーでの三週間という期間は長く、いろいろなことがありました。UBCでの英語の学習。バンクーバーでのホームステイによるカナダ生活。そしてバンクーバーの良いところをいろいろ見えたことと、わたしの体験は大きく三種類に分けられます。これらのことには全て英語がついてまわりました。英語に自信のない僕にとって最大の

つをして、自己紹介まではな
んとか出来ました。当然英語
です。その先はなんだかわか
りません。ホストファミリー
は、フアーザー、マザー、ブ
ラザーが二人。相手を何と言っ
ているのかわかりもしなけれ
ば、自分がどう言っていいた
りかわらないという状態が續
き、一日目の夕食では、慣れ
ない食事事も加わって、何も話
せず過ぎてゆきました。月曜
から金曜は、大学に行き英語
の学習です。ここでは、日本
工大の十五名と会うことがで
き、日本語で思いきり話の出

とは、野球やテニス・フリスビーを近くの学校のグラウンドでしたり、カードゲームをやったり、映画を観に連れていかれてもらったりと、接触する機会が割合たくさんありました。また、他の家のホームパーティーに連れていかれた時には、初めて合う見ず知らずの人達とすうまくいくだろうか不安でしたが、相手は、英語がわからないなりに、話してくれるのので助かりました。そして、僕の話すことを興味をもって聞いてくれ、帰る時まで話がつきないのには自分でも驚きま

が、道路から必ず奥にあるので、密集しているように見えません。道路から家までは、花や芝生が植えられていて、三週間に一回芝刈りをするそうです。その道路にしても、車が多く通る道と、住宅の中の道は正確に別けられていて、歩行者用の路は静かでした。眺めのいい丘は公園になっていて、うらやましい限りです。バンクーバーでは、夜八時まで昼間のように明るく、スポーツの時は必ずショートパンツで、晴れていると暑く、日陰に入ってしまうと寒いく

レーサーで、車とはいえ新しいのから古いものまで日本車がやたら多く、縦列駐車がすごくうまい、というように日本と違うことをあげるときがあります。

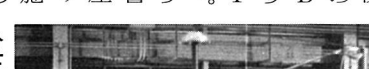
自分の国日本を離れてみて、自分の情けなさやダメなところがいっぱい見えてきてしまいました。それぐらいバンクーバーはよかったです。

うらやましいと思うけれど、後に残った問題はもっと英語の勉強をしなければならない事で、まだまだ僕の不安は消えそうにありません。

当UHVセンターではインパルス電圧測定用標準分圧器の開発を国内各メーカーの協力のもとに進めているが、この度ドイツPTB（国立・物理工学研究所）の標準分圧器が日本に到着し、我国で初めての国際比較試験がUHVセンターで六月十日より七月八日にかけて実施された。とくに六月二十六日には、電気学会の関連委員会委員二十一名（東大、東洋大、東京電力、関西電力、中部電力、電力中央研、日立、東芝、三菱、富士明電、古河電工、住友電工、

日本ガシシ、日新電機、電気計器検定所など）の見学のもとに実験が行われた。この標準分圧器は、ドイツ、フランス、オランダ、英国、イタリア、スペイン、ポルトガル各国の代表的な国立研究所で持ち回り試験が行われたものであり、当UHVセクターは比較試験技術においてそれら各国と十分肩をならべることが立証された。また、UHVセクター開発の標準分圧器との比較試験結果も極めて良好なものであり、当研究所の標準分圧器の優秀性が確認さ

れるなど、大きな成果が得られた。写真は見学会当日の状況で、中央右寄り奥の小型分圧器がPTB標準分圧器、左寄り手前の分圧器がPTB供試分圧器である。なお、オーストラリア経由で日本に到着したこのPTB分圧器は、今後国内三ヶ所と比較試験を実施したのち中国に送られることになっている。

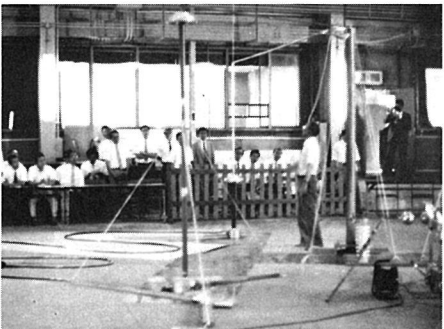


分圧器

国際比較試験の見学会
左／PTB標準分圧器
右／PTB供試分圧器



ホストファミリーの家の前で



国際比較試験の見学会
右／PTB標準分圧器
左／PTB供試分圧器

人事異動

選任

【七月十一日付】

▽法人評議員
鈴木 昭正（総務部長）



広瀬 治男（教務部長・電気電子工学科教授）



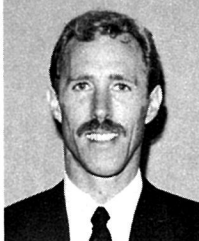
安部 晨（図書館事務課長）



任用

【十月一日付】

▽教養科 外国人講師
Mr. John Andrew Moore



一九五二年五月三日生。一九七〇年、バンクーバー・テクニカル・ハイスクール卒。前、フューチャー・エレクトロニクス社（ドイツ）勤務。▽教養科 外国人講師
Ms Barbara Kerr



一九五四年十月二十四日生。一九七七年、ヨーク大学卒。前グルノーブル大学英語教授。▽総務部総務課
【七月一日付】
原田 隆（はらだ・たかし）



昭和三十八年十一月六日生。明治大学商学部商学科卒。▽総務部用度課
【九月一日付】
武井 孝（たけい・たかし）



昭和三十五年九月十九日生。法政大学経営学部経営学科卒。▽教務部教務課
【十月一日付】
飯田 将彦（いいた・まさひこ）



昇任

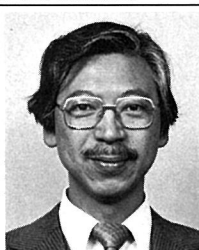
【十月一日付】

▽教養科 教授
清島 達郎（きよしま・たつろう）



昭和十五年十二月二十四日

生。昭和四十四年三月、東京工業大学大学院博士課程単位取得退学。同年四月、本学専任講師。四十八年十二月、同助教授。▽建築学科 教授
伊藤 庸一（いとう・よういち）



昭和二十年一月十六日生。昭和四十四年三月、東京工業大学建築学科卒。同年四月、本学建築学科助手。五十二年十月、同専任講師。六十二年四月、同助教授。工学博士（東京工業大学）
【十一月一日付】
▽機械工学科 教授
柳沢 章（やなぎざわ・あきら）



昭和四十四年三月、千葉大学大学院工学研究科修士課程修了。同年四月、本学工学部機械工学科助手。四十七年四月、同専任講師。五十六年十月、同助教授。工学博士（東京大学）
▽建築学科 講師
黒津 高行（くろつ・たかゆき）



昭和三十年六月二十日生。昭和五十九年四月、本学建築技術センター（現、建築技術研究センター）教育技術員。平成三年一月、日本工業大学大学院工学研究科博士課程後期）建築学専攻修了。工学博士（日本工業大学）。

学科主任

【十月一日付】

□教養科主任
松本 繁（まつもと・しげる）



□電気電子工学科主任
松田 郁夫（まつだ・いっく）



□建築学科主任
北後 寿（きたご・しゅん）



平成二年度決算 平成三年度予算

報告

第二十四期決算・第二十五期予算が公認会計士及び法人監事の監査を受け、法人理事会・評議員会で承認決定されましたので、ここに財務諸表を公表し、関係各位のご理解とご協力をお願いする次第です。システム工学科の臨時定員増が承認され、本年度より平成十一年まで四学科の定員は各二百名となります。また、情報技術センターの電子計算機もVAX4000となり一段と機能が向上し教育にその効果が現れる事が期待されます。私学の大きな支えとなっている国庫補助・経常経費補助金は、年々減額されてきており、所属収入に占める割合も昭和五十五年の二五・三％をピークとして、年々下降し、平成二年度には一〇・九％となっております。消費税は、

平成二年度 決算について

年度内の、全ての収支を表す資金収支計算書と期末における全ての資産と負債の状況を示す貸借対照表は別表の通りです。教育と研究を支える教育研究

究経費の確保により、研究活動が一段と活発化して、その影響が教育に反映されています。

施設の改善や設備の充実を配慮した予算の執行が行われました。当年度購入された主な教育研究用機器備品は次のとおりです。

◇ ◇ ◇
マイコン応用技術総合教育システム、走査型レーザー顕微鏡、材料強度試験機、超高速・高精度インパルス・高電圧・大電流発生計測装置、イオン注入関連装置、MICR O VAX 3400システム、

内燃機関動力性能実験装置、フリーエ交換赤外分光装置、光ファイバー流速計測システム、ワイヤー放電加工機、X

装置補助金研究設備補助金の国庫補助事業として、四件を文部省に申請中です。（予算規模・二億五千万円）

平成三年度 予算について

□教育研究経費
学生経費・卒研費・研究費・特別研究費の拡大に努めると共に、年々増加している機器設備の維持経費確保を計る等、円滑な教育研究活動を目指した予算編成と成っています。

□主な設備計画
特別研究設備は、学内から特別研究のテーマとそれに関連する設備の希望を募り決定されますが、それらの研究の内容と設備の検討をし、研究装置補助金研究設備補助金の国庫補助事業として、四件を文部省に申請中です。（予算規模・二億五千万円）

□主な施設計画
本年度は下記工事の他、教

平成3年度資金収支予算書

収入の部		金額	支出の部		金額
学生納付金収入		4,057,911,000	人件費支出		2,195,560,000
授業料	2,638,981,000		教育研究費支出		837,061,556
入学金	227,000,000		施設関係支出		1,674,000,000
実験研究費	359,358,000		設備関係支出		645,549,246
施設設備拡充費	832,572,000		管理経費支出		186,669,000
手数料収入	101,500,000		借入金等利息支出		99,078,900
寄付金収入	80,000,000		借入金返済支出		110,050,000
国庫補助金収入	498,260,000		その他の支出		691,515,684
資産運用収入	269,000,000		未払金		46,741,502
事業収入	3,000,000		退職金特定資産繰入		0
雑収入	2,500,000		施設特定資産繰入		260,000,000
借入金収入	700,000,000		育英基金特定資産繰入		9,000,000
学費前受金収入	1,494,525,000		その他		375,774,182
未収金収入	100,659,000		予備費		
その他の収入	16,526,496				
資金収入調整勘定		△1,494,525,000			
学費前受金控除					
前期繰越資金		5,096,359,211	次期繰越資金		4,426,231,321
収入の部合計		10,925,715,707	支出の部合計		10,925,715,707

平成2年度資金収支計算書

収入の部		金額	支出の部		金額
学生納付金収入		3,844,448,600	人件費支出		2,065,154,715
授業料	2,453,899,600		教育研究費支出		812,703,033
入学金	212,178,000		施設関係支出		338,003,816
実験研究費	353,739,000		設備関係支出		627,240,433
施設設備拡充費	824,632,000		管理経費支出		177,432,834
手数料収入	104,745,520		借入金等利息支出		66,248,621
寄付金収入	197,608,630		借入金返済支出		113,870,000
国庫補助金収入	689,713,000		その他の支出		423,228,081
資産運用収入	503,104,317		未払金	40,411,935	
資産売却収入	17,700,000		退職金特定資産繰入	38,651,337	
事業収入	5,666,010		施設特定資産繰入	99,648,102	
雑収入	82,596,386		育英基金特定資産繰入	16,942,275	
借入金収入	150,000,000		その他	227,574,432	
学費前受金収入	1,494,525,000		資金支出調整勘定		△ 46,741,502
未収金収入	158,800,156		次期繰越資金		5,096,359,211
その他の収入	14,813,956				
資金収入調整勘定		△1,485,154,500			
学費前受金控除		△1,384,495,500			
未収金控除		△ 100,659,000			
前期繰越資金		3,894,932,167			
収入の部合計		9,673,499,242	支出の部合計		9,673,499,242

貸借対照表

平成3年3月31日現在

収入の部		金額	支出の部		金額
資産の部		8,664,904,084	負債の部		1,953,763,068
固定資産			長期借入金	988,280,000	
土地	932,284,451		退職給付引当金	965,483,068	
建物	3,164,367,617		流動負債		1,732,130,684
構築物	302,769,848		短期借入金	110,050,000	
教研用機器備品	3,207,855,552		未払金	46,741,502	
その他機器備品	111,054,989		未収金	1,494,525,000	
図書	706,703,165		預り金	80,814,182	
車輛	9,873,462		基本金の部		13,107,467,879
建設仮勘定	229,995,000		基本金		
その他の固定資産		2,407,777,616			
電話加入権	1,873,530		消費収支差額の部		△ 507,135,224
有価証券	500,000		消費支出超過額		
退職給付引当特定資産	509,988,043				
育英基金引当特定資産	232,374,698				
施設更新引当特定資産	1,241,227,549				
その他の特定資産	421,166,096				
その他	647,700				
流動資産		5,213,544,707			
現金	5,096,359,211				
未収金	100,659,000				
仮払金	16,526,496				
合 計		16,286,226,407	合 計		16,286,226,407

室・実験研究棟等の改善工事
がおこなわれる予定です。
「実験研究棟の改築」
九号館増築 平成三年・四
年にまたがる工事で本年度分
として三億円が予算化されて
います。（総工事費六億円）